

平成二十三年第四回六月定例人吉市議会の開催にあたり、所信の一端を申し述べ、機会を与えていただきましたことに、心から厚くお礼を申し上げます。また、若干時間を頂戴したいと存じますが、お許しくださいますようお願い申し上げます。

まずもって、先の三月十一日に発生いたしました東日本大震災におきまして、犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また被災地の皆様方のご心労や嘆き苦しみはいかばかりかとお察し申し上げ、心よりお見舞い申し上げます。本市といたしましても微力ではありますが、できうる限りのお手伝いやご支援を、息長く継続し一日も早い復興のための努力をいたす覚悟でございますので、何とぞ被災地の皆様方のお心が安んじられますようお祈り申し上げる次第でございます。またこの震災を契機に、日本人としての絆や世界との絆の大切さを深く学ばせていただき、これを機会に人としての生き方がいかにあるべきか私自身への問いかけはもちろんのこと、市民の皆様方とも機会あることに語り合つてまいりたいと存じます。そして、官民協働による人吉のまちづくりや市民あるいは団体との連携につなげてまいりたいと存じております。

さて、先の統一地方選挙におきましては、私の二期目の出馬に対し、市民の皆様方から力強いご激励と温かいご支援を頂戴し、身に余る光栄でございました。さらに緊張感を持ちながら、引き続き「市民みんなが健康で、笑顔で暮らせるまちづくり」に向かって、全力を尽くしてまいります。

私は、これからも一期目同様、市民の皆様方の声を大切にし、また、議会のご判断を仰ぎながら、私の政治信条でございます「公平、公正、公明なる、市民に開かれた、市民のための市政運営」に取り組んでまいる所存でございます。前期同様、市民の皆様とともに歩む政治姿勢を貫き通してまいりますことを、改めまして強く市民の皆様へ申し上げさせていただきます。私は、平成十九年の六月議会の所信表明の中でも申し上げましたが、回復させていただきますと、私利私欲、私心から生まれる利己主義や利権主義、拝金拝物主義、また地位に恋々とする保身主義を心底から嫌い、公平、公正、公明を旨として透明性の高い行政運営に尽力してまいります。

私の一期四年間を振り返って見ますと、財政硬直化の中、経常収支比率の改善に力を入れるべく、三役の給与削減を図り、職員適正化計画に基づき職員数の削減を実施してまいりました。このことによりさらに厳しい労働環境を強いられたにもかかわらず、職員諸君は良くこれを理解しさらに多岐多様となった職務に精励していただきました。また官民一体となって実施するじゅぐりつと博覧会を始め様々な市の事業や会議に、まちづくり団体や市民の皆様方には積極的に市政に参画していただき、知恵と汗を流していただきましたことに心より感謝申し上げます。これからも市民の皆様方や職員とともに更なる財政改革に挑みながら市政発展を遂げていかなければなりません。ここで、議会の皆様方にも市民の皆様方にも是非ご理解をいただかなければならないことがございます。それは、今、本市が財政的にどのような状況に置かれているか、限られた予算の中で何を選択し何に集中すべきか、何が人吉の現在と未来に対して必要不可欠のことなのかの議論を深め、人吉の財政規律を求めながらも大胆な投資にも踏み切らねばならないときが来ているのではな

いかということでございます。

また大胆な投資の反面、財政多難な折、市民の大切な予算の中から交付させていただく補助金などにつきましては、受給団体を始めとして様々な市民の皆様方のご要望に今後どれだけお応えできるか分かりませんし、交付額削減や不交付団体の間には、様々なご批判も生まれてくるかは存じますが、あえてご批判は真正面から受け止めさせていただき、未来の人吉市民たちに過大な負担を先送りすることなき財政運営にも目を配りながら、ビジョンに向かい、臨機応変な対応と実行こそが私の最大の努めと肝に銘じ、不動の指針としてまいりたいと存じます。よって、今後機会あることに、本市財政の実情と市政のビジョン、戦略、戦術をよくよくご説明申し上げてまいりますので、何とぞ市民の皆様方には、ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

また四年前には、アメリカ合衆国第三十五代大統領、ジョン・F・ケネディーの就任演説の中から「あなたが国家に何をしてもらうかということを考えるより、あなたが国家に何を貢献することができるかを考えて欲しい」という言葉を引用させていただき、市役所から何をしてもらうかという立場から、人吉という地域社会のために何ができるかという考え方に立つて欲しいと申し上げました。私の政治的理想は、人吉市民一人一人が家族という絆を大切にし、向こう三軒両隣、町内会、職場、所属団体、地域社会、国家、さらには世界の人々に、奉仕の心を持ち、地球市民として共に行動することであります。市民一人一人が、「一人はすべての人々のために、すべては一人のために」を合言葉として、市民みんなで、市民幸福向上のために心を尽くしてまいります。

これまでの四年間、公平、公正、公明な市政運営環境を構築することに専念してまいりました。しかし誠に残念なことながら、未だに利権に巣くおうとする個人や集団は根強く存在し、利権獲得のためや保身のためには、あらゆる手段を講じることも辞さないという人たちが、跋扈する事実もございました。東日本大震災を境として、もうそろそろ、私心を捨て人々のためにさわやかに生きること目覚めても良いときではないでしょうか。

そこで私といたしましては、二期目のスタートに当たり、一部の者のためだけの利権や保身のために汲々とする意識を持った勢力と、不転の決意を持って毅然と戦い抜くということをここに宣言いたします。勿論のこと、様々なしがらみを私自身も断ち切るために、一期目同様、企業献金、個人献金を一切受け取ることなく、自らの政治的透明性をさらに高め、堅持してまいります所存でございます。

また、先の選挙戦において、市民の皆様方にお約束いたしましたマニフェストの実現につきましても、市職員と一丸となって、四年でやるべきところを三年でやり遂げるくらいの気概を持って全力で取り組んでまいりたいと存じます。施策につきましては、短期で取り組むもの、中期、長期で取り組むものを同時進行させていくことで、私たちの子や孫の世代の人吉を見据えた政策を行ってまいります決意でございます。

私たちを取り巻く情勢といたしましては、国の予算の二次補正案も先の東日本大震災の影響でまだ不透明な部分もあり、世界的に見ても円高をはじめとする色々な面で日本の経済は厳しい状況におかれております。地方では更に過酷な財政運営を強いられるものと存

じますが、私を先頭に、市民みんなで汗をかき、知恵を出し合ってこの局面を乗り切ってまいる所存でございますので、何とぞ、市議会議員各位と市民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

続きまして、本年度の施策につきまして申し述べさせていただきます。

今後の市政の指針となる第五次総合計画につきましては、現在、策定に向け庁内に策定検討委員会を設けて、鋭意進めているところでございます。

前回の策定から十年近くが経過しましたが、この間、全国的な人口の減少や少子高齢社会が現実となり、個人所得や企業の業績も伸び悩む一方、地域経済圏の変化は地域活動や市民生活に様々な影響を及ぼし、自治体に求められる公共サービスは多様化しております。また、国はこの度の東日本大震災による日本の復興という大きな試練と課題を抱えており、都市戦略にも新たな視点が求められ、質・量ともにこれまでも増して効率的な自治体経営が問われているところでございます。

このような情勢ではございますが、本市といたしましては、今後さらに、市民の幸福向上に最大限の努力を傾注いたしますとともに、南九州の拠点都市として、農業と観光の振興、そして企業誘致を最大の戦略と位置づけ、総合計画とマニフェストとの整合性を保ちながら、様々な施策を実施してまいる所存でございます。

また、これからのまちづくりには、市民と行政の協働が不可欠な要素となっておりまして、新たな総合計画の策定に当たりましては、総合計画策定審議会などを通して、市民の皆様との対話を一層深めながら、市民と行政とが一体となって本市の将来の都市像を描いてまいりたいと存じます。

今後とも、議員の皆様を始め、関係各位のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

市制七十周年記念事業関係でございますが、来る平成二十四年の二月十一日に市制施行七十周年を迎えます。この記念すべき年に当たり、本市が歩んできた七十年を振り返るとともに、幾多の先人たちによって培われてきた本市の古き良き伝統と文化を尊び、その功績を未来の子どもたちにつなぐことで、本市の更なる飛躍、発展する契機にしたいと存じます。今後、様々な記念事業を行ってまいる所存でございますが、これに先立ちまして、本事業の一環として、昨年、株式会社テレビ熊本と本市が共同制作しましたドラマ「空の開拓者 日野熊蔵伝」に登場した実物大復元飛行機のハンス・グラーデ機を、市制七十周年に合わせてテレビ熊本様からご寄贈いただきました。石野公園に展示することで、引き続き日野熊蔵翁の功績を称える財産の一つとなることと存じます。

さらに、七十周年事業の一環としまして、熊本学園大学との包括協定を進めているところでございます。地域社会の発展に係る調査及び研究、人材の育成及び教育、その他様々な分野において相互に協力することを目的としており、地域の課題解決のためのご提言をいただくことを期待しているところでございます。

広報広聴関係でございますが、私は市長就任以来、市民の皆様と相互理解を図るため、タウンミーティング、市長と語ろう ひとよし、かがやき、づくりトークを開催してまい

りました。昨年までは校区、町内単位を中心に開催していましたが、今年は町内単位に加えて職場や各種団体単位を対象にした開催も計画しているところがございます。きめ細やかに開催し、参加しやすい状況をつくることで幅広い意見を拝聴させていただき、より多くの市民の皆様と市政に対する意見や考えなどの共有を図ってまいりたいと存じます。

行財政改革でございますが、経費節減の手始めといたしまして、一期目に引き続き、市長給与の二十パーセントを削減することとし、先日の臨時議会で関係条例案についてお認めいただいたところでございます。また、市職員の総人件費削減に向けて、今後一年以内に新定員適正化計画を策定いたしますとともに、新たな組織機構改革により、機動性の高い組織づくりを行う所存でございます。また、行政評価制度を有効かつ積極的に活用することで、経費の効率化を図り、併せて職員の意識改革を徹底してまいります。その一環として、昨年から着手しております事務事業体系化作業を更に推進してまいりる所存でございます。

東日本大震災に伴う支援関係でございますが、震災後、被災地への物的支援、人的支援をはじめ、現在も様々な形で支援をしているところでございます。

物的支援につきましては、市民の皆様にご覧に品目を限定して物資提供の呼びかけをいたしましたところ、トイレットペーパーなどの紙製品がダンボール七十箱、四トン車一台分集まりましたので、大切に梱包し、四月十二日に宮城県仙台市へ搬送させていただきました。

義援金でございますが、これまでに個人や町内会、企業や各種団体などから寄せられた善意が二千四百万円を超えました。こちらは日本赤十字社を通じて送金いたしております。形を問わず、市民の皆様方の善意と温かいお心に本当に胸が熱くなった次第でございます。この場を借りまして心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、本市の義援金につきましては、専決処分において補正予算措置いたしました二千万円を、去る四月二十二日に義援金窓口へ送金させていただきました。

被災地に対する人的支援でございますが、応急給水活動熊本県下自治体合同チームや熊本県・市町村合同事務職人的支援チーム、熊本県・市町村合同健康福祉チームの一員として、四月五日から本日まで計七人の職員を派遣しております。現地での業務は給水業務や保健業務などの専門技術を要する業務のほか、被災自治体の業務補助など様々でございますが、派遣職員は、自治体職員としての知識と経験を活かし、自律的、積極的に業務に取り組んでおりまして、多忙を極める被災自治体職員のみなさんの支えとなっております。ところでございます。本市におきましては、決して職員数に余裕があるわけではございませんが、国難ともいえる状況でございますので、今後とも、関係機関と連携を図りながら、現行の支援枠組の中で、積極的かつ継続的に職員を派遣していく方針でございます。どうかご理解を賜りたいと存じます。

被災された方の住居支援でございますが、被災して住居を失われた方や、福島原子力発電所周辺地域にお住まいの方で立入制限により避難所生活を余儀なくされている方などを対象に、市営住宅の空室を提供し、家賃や設備などにつきましても生活支援を行うこととしております。また、集団疎開支援絆プロジェクトとして、小規模の小・中学校を丸ごと

受け入れる支援策を提案させていただいております。これは、学校が被災したために十分な授業が行えないなどの悩みを解消すべく、人吉総合病院様のご協力の下、教室や図書室、体育館など教育施設のほか、個室、食堂、大浴場、洗濯室などの生活施設も備えている旧人吉看護専門学校を校舎として提供しようというものでございます。原則として生徒と教職員合わせて七十人程度の学校を想定しており、できるだけ震災前に近い学校生活の提供を目的としたものでございます。今のところ申出はあっておりませんが、引き続き提供の呼びかけを行い、その呼応を見据えながら、ほかの支援策についても検討してまいりたいと存じます。いずれにいたしましても、被災された子どもたちが少しでも安心した生活を送っていただけることを願っている次第でございます。

防災関係でございますが、去る五月二十二日、本市主催による人吉市防災実動訓練を、西瀬地区多目的広場をメイン会場に実施いたしました。本市では、例年、出水期前に水害対応型の防災訓練を実施しておりますが、今回も、「防災関係機関職員及び住民との連携強化」、「住民の防災意識の高揚」、「防災関係機関職員の能力向上」を目的として、消防団、人吉下球磨消防組合を始め、自衛隊第八特科連隊第二大隊、国土交通省八代河川国道事務所、人吉総合病院DMAT、そして災害応援協定を締結している企業団体など多数の関係団体の参加をいただき、水防工法、土砂災害救助など本番さながらの訓練を実施することができました。また、西瀬校区川南地区の町内会のご協力のもと、矢黒町、上・下永野町、上・下戸越町、鹿目町の住民の皆様には、炊き出し訓練、避難訓練に積極的な参加を賜り厚く感謝申し上げます。今回の防災訓練は、東日本大震災の後でもあり、地域の防災に対する関心の高さと、行政の責務の大きさを再認識したところでございます。今後も行政と市民の皆様が一体となった防災対策の推進を図り、安全安心なまちづくりに取り組んでまいりたいと存じます。

消防関係でございますが、来る八月二十一日に第二回熊本県女性消防操法大会が、宇城市で開催されます。この大会は、五百八十人を超える県内の女性消防団員が結集し、五人一組で軽可搬ポンプを操作していかに機敏に規律正しく放水できるかを競うものでございます。本市女性消防隊は、一昨年の第一回大会においてタイムでわずかに及ばず三位に甘んじましたが、規律面では最高の評価をいただき、県内のトップレベルに達した操法技術で大会関係者に強烈な印象を残したところでございます。今回は人吉下球磨消防組合のご指導の下、優勝を目指して既に四月から訓練を開始しておりまして、隊員の所属事業所など関係機関の皆様には多大なご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。この大会を通じて、消防団員の一層の士気の高揚と技術の向上、そして人吉市消防団の強固な結束が図られるものと確信しているところでございます。

納税関係でございますが、市民サービスの一環として納付機会の拡大を図るため、月曜日と木曜日の窓口開庁時間の延長並びに四、五月の出納閉鎖期間中の日曜開庁による納付、納税相談を行ってまいりました。今後は、更に市民の皆様の利便性の向上を図るため、従来の金融機関での納付に加えて、コンビニエンスストアでの収納の開始に向けた準備を進めてまいりる所存でございます。

地域福祉関係でございますが、本市におきましては、人吉市地域福祉計画に基づき、すべての人が生きがいをもって、互いに力を出し合い、安心して豊かに暮らせる幸せいっばいのまちづくり」を進めているところでございます。その中で、ご自分では買物に行くことが難しく、食品や日常生活用品の確保に不自由をされておられる方々への対応が急務でございました。本市といたしましては、人吉市社会福祉協議会に委託して「買い物交流支援えがおのふれあい事業」に取り組んでおりまして、去る六月一日、九日町商店街に買い物支援センターを開設いたしました。地元商店街の皆様との連携のもと、ご用聞きや配達などを行うとともに、福祉に関する情報の提供、仲間づくりなど、地域における交流やふれあいの創出も期待しているところでございます。

高齢者福祉関係でございますが、来る十月十五日から十八日まで、全国的なイベントである「ねんりんピック」が本県で開催されます。これは高齢者を中心としたスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な「全国健康福祉祭」でございます。本市では、囲碁交流大会が開催されます。全国各地から参加されます選手や関係者の皆様方を一期一会のおもてなしでお迎えすることにより、全国へ向けて、本市の情報発信を行う絶好の機会と捉えています。ところでございます。本大会に向けまして、鋭意準備を進めておりますが、引き続き本大会実行委員会及び運営委員の皆様方を始め、市民総参加による取組を切に願います。でございます。

介護保険関係でございますが、本年度は、平成二十四年度から二十六年までの三年間を期間とした第五期介護保険事業計画・老人保健福祉計画の策定の年でございます。現在、市民の代表で構成されております策定委員会でご審議をいただいているところでございますが、今後は、更に多くの皆様のご意見を賜りながら、第五期の介護保険料の設定をはじめ、介護保険及び高齢者の健康福祉に関する事業計画を策定してまいりたいと存じます。

農業振興関係でございますが、農産物ブランド化への取組といたしましては、「農事組合法人 人吉きのこ生産組合」を事業主体として、「緑の産業再生プロジェクト促進事業」の種目である「特用林産施設整備事業」を活用し、二十八棟の菌床きのこ栽培施設の整備が進められているところでございます。

本組合では、キクラゲ菌床の供給元の共栄精密熊本株式会社様及び出荷先である熊本市のエヴァウェイ株式会社様との連携により、良質な国産キクラゲの組織的な生産販売がなされ、組合員の所得向上につながることを目指しており、本市といたしまして、農産物ブランド化へのモデル事業と位置づけ、積極的に支援してまいりたいと存じます。

地産他商関係でございますが、本市の安全安心そして新鮮な農産物を全国の消費者に届けようと、農産物直売所のご協力をいただきながら「人吉」のラッキー便と銘打ったふるさと宅配便の発送をこの五月から始めました。「人吉」は、その名のとおり「人」に「吉」(ラッキー)な安全安心の農作物を作りお届けするというコンセプトで、春夏秋冬、年四回の発送を計画しております。現在もあらゆる機会を捉え、その募集を行なっているところでございまして、全国に向けて販路確保の一翼なることを期待しているところでございます。

また、都市圏への本市のPRといたしまして、東京都庁全国観光PRコーナーにおいて、十一月二十三日から二十九日までの七日間、各方面のご協力を得ながら、本市の農産物をはじめ、物産、観光のPRイベントを開催する計画でございます。都市圏に広く本市をPRできる絶好の機会と捉えています。

商工関係でございますが、地デジ放送への完全移行が来る七月二十四日と迫る中、難視聴世帯の解消に向けて、継続してアナログ放送終了についてのご理解と地デジ化への早目の対応をお願いし、特に高齢者世帯の日常生活に混乱がないよう周知・徹底を図っているところでございます。また、移行への期限が迫っていることから、デジサポ熊本との連携により、地デジ相談窓口を六月十五日から八月二十六日まで市役所別館に開設いたします。様々なご相談に応じるほか戸別訪問にも対応しますので、未対応の方や地デジ放送が受信できない場合は、お気軽にご相談いただければと存じます。

労働雇用関係でございますが、先の見えない景気動向によりまして未だ地方経済は疲弊している状況にあり、厳しい雇用情勢が続いています。人吉球磨地域の有効求人倍率は、今年二月から三月にかけて、五三倍で推移しておりますが、急速に状況が好転するとは考えにくく、なお雇用への不安がございます。現在も多くの方が職を求めてハローワーク球磨をご利用されており、本市といたしましては昨年に引き続き市民生活の安定を図ることを目的として、失業者に対する短期の雇用・就業機会の創出・提供のために緊急雇用創出事業に取り組んでまいりたいと存じます。

観光振興関係でございますが、去る、四月三十日と五月一日の両日、人吉城跡ふるさと歴史の広場で開催いたしました日本百名城「人吉お城まつり」は、昨年から登場いたしております市内の小学生からなる、鉦叩き少年隊約百人を含む総勢二百人の武者行列が大いに好評を得たほか、二日目の校区対抗六調子大会では、各参加チームにおいて様々な工夫をされ、出演者並びに応援の皆様ともに昨年以上の盛り上がりを見せておりました。一日目の夜の城下町パレードは途中から雨となりましたが、まつり全体では、昨年を上回る三万二千人の来場者がありました。また今年は、「東北地方太平洋沖地震復興支援」と位置づけまして、停滞する経済の活力となればと取り組み、会場で義援金を募りましたところ、ご来場いただきました皆様や、出演者並びに出店業者の方々から合計五十七万二千三百二十五円の善意が寄せられましたので、日本赤十字社熊本県支部人吉市地区へお渡ししたところでございます。

次に、春のじゅぐりつと博覧会でございますが、三月中のイベントにつきましては、大震災の関係でイベント開催を自粛いたしておりましたが、三月下旬の蒲島熊本県知事の被災地復興を支える旨の自粛解禁宣言に伴い、四月中旬から開始いたしました。体験をキーワードに城下町人吉を楽しむ「人吉城下町体験ツアーリズム」や、第二回ひとよし歌謡祭をはじめとした音楽イベントのほか、中心市街地を「歩いて・見て・感じる・相良七百年」と題した「人吉歴史回廊・人吉まちかど資料館」十一箇所などを開場いたしました。

また、今回、新たに人吉社交飲食業組合加盟店による、球磨焼酎の楽しみ方を紹介する「球磨焼酎 春の陣」を開催し、市民並びに観光客の皆様楽しんでいただくことができ

ました。

この二つのイベントをこのように盛大に開催できましたのも、ご協賛・ご協力いただきました市民の皆様や関係企業・団体各位、さらに企画運営に携われました双方の実行委員会を始めとする関係各位のご尽力の賜物でございます。この場を借りまして皆様にご心からお礼を申し上げます。

観光客誘致関係でございますが、JR九州の九州横断特急沿線にあります別府・大分・豊後大野・竹田・阿蘇・熊本・八代・人吉の八市の市長が、去る五月十九日、九州市長会開催時に併せて協議を行い、九州横断特急ルート全域をキーワードに、中九州観光圏に新たな観光客の誘致と地域活性化を目指しながら、元気な九州をアピールする、「九州横断特急沿線都市観光協議会」を発足いたしております。今後は、実務者による幹事会を開きながら事業展開を行うとともに、相互協力と観光事業における情報交換を進めてまいりてまいります。

土木関係でございますが、本市が管理する橋梁につきましては、高度成長期に建設されました橋梁の高齢化を考慮し、平成二十一年度にご点検業務を実施し、これを受けて二十二年度に従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへと転換することで費用の縮減と平準化を図る、橋梁長寿命化修繕計画を策定いたしました。今後、修繕が必要な橋梁につきまして、計画的に修繕工事を実施してまいりたいと存じます。

本年度は、橋桁にひび割れが発生し、現在二トン車以上の車両通行止めの交通規制をかけております市道戸越地内第三号線に架かっている小股橋の修繕工事を計画しているところでございます。また、市道上林中神線に架かっております中原跨線橋につきましても、橋桁などにさびが発生し腐食が進行しておりますので、詳細調査などを実施してまいりたいと存じます。

市営住宅関係でございますが、本市の市営住宅につきましては、建設後三十年から四十年を経過した住宅が多く存在し、老朽化が見受けられます。本年度は、既存住宅ストックについて、確実な点検の実施及びその点検に基づく維持修繕などの予防保全的管理の下で、既存ストック住宅の長寿命化対策及び計画的な改修・更新を行うことを目的とした公営住宅等長寿命化計画を策定して、安全、安心な住生活の「質」の向上を目指し、計画的な整備を進めてまいりたいと存じます。

都市計画関係でございますが、街路事業として取り組んでおりました都市計画道路「紺屋町南町線外一線」の道路改築工事が、本年三月末に完了いたしました。都市計画道路は都市の骨格を形成し円滑な都市活動を支える重要な都市施設であり、都市の健全な発展のためには、今後も継続的に整備を進めていく必要があります。

そこで、人吉市総合計画や人吉市都市計画マスタープラン、人吉市都市計画道路整備プログラムに基づく検討や、本市独自の交通量調査などを行い、次期整備区間の検討をいたしました結果、都市計画道路「下林願成寺線」のうち、県道坂本人吉線交差点付近からフルーティロード交差点付近までの未整備区間を次期整備区間とし、まずは鬼木町ファミリ―マート様前からもみの木動物病院様前までの区間の整備に取り組むこといたしました。

今後は、路線測量及び予備設計を行ったのち、国の事業認可に必要な事務手続きを完了させ、補助事業である街路事業として同区間の整備に取り組んでまいりたいと存じます。

公園事業でございますが、本市の都市公園につきましては、設置してから二十年から三十年余りが経過している公園が多く、施設も老朽化し、それに伴う遊具の減少や事故などの危険もございますので、既存公園施設の計画的な改築や修繕などに取り組む時期がまいつております。本年度は、都市公園における公園施設について、適切な施設点検、維持修繕などの予防保全的管理の下で、既存公園施設の長寿命化対策及び計画的に改築・更新を行うことを目的とした公園施設長寿命化計画を策定し、平成二十四年度から、子供や高齢者をはじめ誰もが安全で安心して利用できる都市公園を目指し、計画的に整備に取り組んでまいり所存でございます。

学校教育関係でございますが、文部科学省の学校ICT環境整備事業、総務省のユビキタスタウン構想推進事業及び絆プロジェクトの三事業は、平成二十二年度末までに完了することができました。この三事業により小中学校におけるタブレットパソコンや電子黒板などのICT機器の整備ができましたので、その活用につきまして、研究や創意工夫を行い、これまで以上にわかりやすい授業の推進や、児童生徒の情報機器活用能力の向上を図ってまいりたいと存じます。

児童の基礎学力の定着・向上につきましては、最重要課題として、各小学校におきましても重点的に取り組んでいるところでございます。しかしながら、これまで本市独自にリテラシー調査を行ってきた結果を見ても、まだ児童の基礎学力が充分に定着している状況ではございませんので、退職教職員の皆様などのご協力をいただきながら、放課後などの時間を活用して基礎学力の定着・向上を図ってまいりたいと存じます。

人吉お城まつりに合わせて開催いたしました「おどんな日本一」武道大会は、心配された天候も持ち直し、盛会のうちに終了することができました。人吉城跡三の丸において開催しました「おどんな日本一全国少年剣道大会」は、九州各県から四百人を超える小・中学生の皆さんの参加があり、絶好のロケーションの中で二日間、白熱した野試合を繰り広げていただきました。人吉市弓道場において開催いたしました「おどんな日本一高校生弓道大会」は、県内外から過去最多の二百九十人の参加があり、団体戦と個人戦が展開されており、また、人吉市相撲場で開催された「おどんな日本一人吉・球磨相撲大会」には、郡市から六十六人の小学生が参加して団体戦、個人戦が行われ、豆力士たちの取組に大きな声援が送られておりました。

各武道大会に参加された選手の皆様におかれましては、貴重な、そして思い出に残る大会になったものと存じます。大会開催にあたりご尽力いただきました関係各位に厚くお礼を申し上げるとともに、今後さらに素晴らしい大会となるよう鋭意努力を重ねてまいりたいと存じます。

いで湯と球磨焼酎・笑顔の里「ひとよし春風マラソン」は、ご協賛いただく各企業並びに多くの団体や市民ボランティアの皆様などのご協力により、これまで八回開催し、全国から多くの方々に参加をいただいているところでございます。前回の大会では、過去最高

となる約四千人の方々にエントリーをいただき、そのうち三割余りの方々が、県外からのランナーでございまして、観光振興にも大きく寄与する大会に成長してまいりました。

第九回大会は、来年二月十九日の開催を早期に決定しており、ランナーへの告知も開始していたところですが、熊本市の政令指定都市移行を記念した、「第一回熊本城マラソン大会」の同日開催が、去る五月十日に決定されました。フルマラソン、三十キロ、約五キロの三種目に、一万人程度の参加を目指した大会が同日開催されるということで、一定の影響を懸念しているところではございますが、本市といたしましては、地元食材を使った郷土料理、沿道での小旗を使つての熱心な応援、疲れを癒す温泉などの温かいおもてなしに積極的に取り組み、本市の特色を大いに生かしたマラソン大会として準備を進めてまいりたいと存じます。

文化事業関係でございしますが、本市の秋を彩る「犬童球溪顕彰音楽祭」も、今年で六十五回を迎えます。本年度は、混声コーラスグループ「フォレスト」によるゲストコンサートのほか、新たに市内合唱団のメンバーを中心に「球溪合唱団（仮称）」を結成していただき、「日本の四季」をテーマに、日本唱歌・歌曲を歌っていただくなど、より多くの市民の皆様楽しんでいただけるステージを企画してまいりたいと存じます。

文化財関係でございしますが、「史跡人吉城跡保存管理計画書」につきましては、昭和五十九年の策定以来、四半世紀が経過したことや中世城部分の追加指定があったことなどを踏まえて、平成二十二年度に改定版を策定いたしましたところでございます。今後はこの計画書を指針として調査や修理、整備計画を具体的に進め、まちづくりのシンボルとして、多くの方々に訪れていただける史跡の創出を目指してまいりたいと存じます。なお、本年度は昨年度に引き続き史跡東側の園路整備工事を実施しますとともに、相良神社境内にあります老朽化したトイレの改修などにつきましても、関係機関と検討を進めてまいりたいと存じます。

上水道事業関係でございしますが、現在、本市の上水道事業は昭和三十二年の給水開始以来、五十四年目を迎えております。平成二十年度に策定いたしました「人吉市水道ビジョン」は、水道事業の現状と将来の見通しを分析・評価した上で、目指すべき将来像を描き、その実現のための具体的方策を示しておりまして、水道事業のマスタープランとなるものでございます。

この「人吉市水道ビジョン」の事業計画に基づき、本年度も引き続き水道施設の整備、水道管路の耐震化及び老朽管更新事業などを実施してまいります。今後水道事業の経営安定化を図り、低廉で清浄かつおいしい水を提供できますよう努めてまいる所存でございます。

生活排水処理施設関連でございしますが、公共下水道につきましては、昭和五十七年三月の供用開始から来年三月で三十年を迎えることとなります。現在、計画区域内の面整備とともに、終末処理場「人吉浄水苑」の老朽化に伴う改築更新工事を行っているところでございますが、今後、同じく老朽化が目立ってきております初期に施工しました管渠施設や汚水中継ポンプ場の改築更新工事の検討も開始するなど、施設の機能維持を図り、安全性

を確保し健全な運転を行ってまいりたいと存じます。

また、浄化槽関係でございますが、本年度から単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への切り替えに対する新たな補助制度を創設するなど、更なる浄化槽の普及を図ってまいりたいと存じます。